

校長室からつぶやき・・・ 『ツイート』新聞



宇美町立宇美南中学校

第4号

文責 校長 熊本 寿美
令和3年4月24日(土)

子ども読書の日集会 ～読書推進に向けて～

4月23日は、「子ども読書の日」です。国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める事を目的として、「子どもの読書活動の推進に関する法律」で定められました。

本校では、朝読書の始まりにあわせ、20日(火)に子ども読書の日集会を実施しました。集会では、宇美町の民話「障子岳の鬼～猫になった鬼～」の紙芝居の読み聞かせを3年生の図書委員のみなさんで行ってくれました。坂本図書委員長と3年生の図書委員のみなさんは、事前の準備やり取りを繰り返し行い、本番は、それぞれの役割を果たす素晴らしい発表でした。読書の良さをつかみ、本に親しむ習慣を身につけ、目標の年間10冊を達成させましょう。



図書委員は、最後の片付けまで頑張ってくれています。

【運営を行った図書委員のみなさん】

- 図書委員長 坂本 尊花さん(図書委員長のことば)
 図書委員 田村 悦也さん(あいさつ) 須藤 瑠菜さん(PC)
 井樋 蓮人さん(語り) 里山 真実さん(司会・紙芝居)



「ことば」の力～伝える思い・伝わる言葉～

子ども読書の日集会の校長の話では、「ことば」の力について話をしました。自分の思いや考えを伝える「ことば」。話の中では小泉吉宏著の「一秒の言葉」を紹介しました。一秒ほどの短い言葉でも思いが伝わります。人を傷つけてしまうこともあります。しかし、ほめたり、励ましたりする肯定的な言葉は、その一言にも相手を元気にしたり勇気をわかせる力をもっています。言葉を知り、言葉を選び、思いを伝える言葉を相手に届けるには、言葉や感性を豊かにしていくことが大切です。読書には、そのよさがあります。みなさんが集会で伝えてくれたように、みなさんは読書のよさをたくさんつかんでいます。今回の話は、生徒会が発信している「ふわふわ言葉四箇条」の思いとつながっています。南中がふわふわ言葉にあふれ、一人一人が輝く花を咲かせていけるように、言葉と感性を磨く本との出会いを願っています。



「一秒の言葉」小泉吉宏

一秒の言葉 小泉吉宏

「はじめまして」
 この一秒ほどの短い言葉に
 「一生のときめきを感じる」ことがある
 「ありがとう」
 この一秒ほどの言葉に
 「人のやさしさを知る」ことがある
 「がんばって」
 この一秒ほどの言葉で
 「勇気がよみがえってくる」ことがある
 「おめでとう」
 この一秒ほどの言葉で
 「幸せにあふれる」ことがある
 「ごめんなさい」
 この一秒ほどの短い言葉に
 「人の弱さを知る」ことがある
 「さようなら」
 この一秒ほどの短い言葉が
 「一生の別れになる」ことがある
 一秒に喜び、一秒に泣く。
 一生懸命、一秒。

自分の一冊に集中。朝読書スタート。



21日(水)より、朝読書がスタートしました。各学級の図書委員が前に出てモデルを示し、全校生徒で読書を行っています。私たち教職員も読書に親しむ時間を共有し一緒に取り組んでいます。今後も読み聞かせや読書推進活動を実施し、宇美町が目指す、読書に親しむ子ども育成に取り組んでいきます。

「鍛えて・ほめて・励まして」 南中生のよさや頑張りが輝く学校づくり